

鎌鍛工記念碑について

三木金物の一つである鎌（かま）の歴史的背景が多く記された鎌鍛工（鍛冶）の記念碑（明治時代後期）が、経年劣化によるひび割れ等の損傷が大きくなってきたことから、刃物関係者の有志が集い修復を行い、新たな場所に移設することとしました。このたび、その除幕入魂式を行います。

1 日時 : 2016年9月22日（祝木） 午前9:00～11:00

2 場所 : 三木鉄道跡地の旧石野駅前（雨天決行）

3 三木市の鎌鍛工

三木市における鎌の製造のルーツをたどると前身は剃刀（ひげそり）です。

その製造技術を生かし、森本幸右衛門・茶屋文兵衛両氏が播州鎌の技術を確立し、現在の鎌の製造技術の礎を築きました。その後、後世に伝習され、現在では、さらに包丁や彫刻刀、木工などにも進展しています。

4 記念碑の概要

鎌鍛工（鍛冶）の記念碑は明治時代後期に建立され別所町石野に位置します。

この記念碑には鎌鍛工の歴史的な背景も多く記されていることから、多くの歴史研究家がこの石碑を写真撮影したり、拓本採取などの視察に来たり、また近隣生徒たちも地元の歴史遺跡の勉強のために拓本を取り、郷土史を学ぶ題材となるなど多くの人の関心が寄せられるものとなっています。

しかしながら、約10年前から石碑の傍にある大木の根の影響により石碑にひび割れが生じ、その亀裂が年々大きくなり、現在は石碑下の基礎コンクリートでなんとか立っているものの、いずれ記念碑が崩落する恐れがある状況となっていました。

5 有志の想い

農耕文化の発展に伴い、道具として鎌の必然性が増し、製造技術は飛躍的に進化するとともに、「刃先」だけでなく「木柄」についても上石野地区で改良に改良を重ね大きく発展し、それに伴い別所町石野の村自体の繁栄に繋がりました。

近年、稲作ではコンバインなどの機械が台頭したために、鎌の需要が減少しはじめものの、機械では刈り取れない部分も多くあること、また機械を扱えない人には依然として鎌は必要不可欠な道具であることから、現在でも製造し、その技術を受け継いでいます。

近年では、先祖から培った鎌の製造技術を生かし、包丁や彫刻刀など他の刃物製造に転身したメーカーや、鎌柄（手で持つ部分）の製造から鋸柄の製造、その他の

木工加工に転進したメーカーなどもあり、日々努力を繰り返してしています。その根底には先人の知恵、そしてその技術の伝承の象徴であったこの記念碑があったからこそと考えています。

鎌のメーカー問屋は北は北海道、南は沖縄まで全国津々浦々まで出向いたことで、播州鎌の一大発展を成し遂げ、三木金物の拡販・宣伝に成功しています。

現在、祖先の功績を称えるために、石野で刃物製造販売に携わっている会員各社11社で秋のお彼岸に記念に飾り付けをし、覚法寺住職の祈願の下、お祈りを続けています。この鍛工記念碑は鎌製造従事者にとって、崇拝するものであり、心のよりどころとして祀ることで先祖代々の功績を称えるとともに、後世へ伝承する地場産業の三木金物の発展、また伝統産業を世界へ発信していく原動力となっています。

この鍛工記念碑を移転した後も、関係者の心のよりどころとなるだけでなく、今後も歴史研究者や学生の研究に貢献できるように有志をはじめ地元住民により引き続き維持管理を行なっていきます。

6 記念碑の写真（修復、移転前の姿）

全長 縦3m 横1m 奥行0.5m



【問合せ先】 石野鍛工碑保存会 世話人 田中 逸雄
電話 0794-82-3331